

# 2026年 1月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時 2026/1/17 (土) 10:00~16:00

2. 開催場所 中部品質管理協会

3. 会員参加者<敬称略> S: オンサイト出席・L: オンライン出席、欠: 欠席、書: 書記、休: 休会

| 大見    | S | 牧野 | S | 横尾 | S | 城越 | S | 伊藤    | S | 舟山 | S | 出島 | 書 | 水田 | S |
|-------|---|----|---|----|---|----|---|-------|---|----|---|----|---|----|---|
| 山口(展) | S | 黒田 | S | 鈴木 | L | 池田 | S | 山口(直) | S | 前田 | 欠 | 木村 | L | 藤井 | S |
| 北村専務  | S |    |   |    |   |    |   |       |   |    |   |    |   |    |   |
| 河合    | 休 | 杉浦 | 休 | 福田 | 休 |    |   |       |   |    |   |    |   |    |   |
|       |   |    |   |    |   |    |   |       |   |    |   |    |   |    |   |

4

4. 研究会内容

## 1) 「輪講 タグチロバスト設計 3章」(池田さん)

シミュレーション+ロバスト設計を用いて設計パラメータを決定する6件の事例について輪講を行った。関連し、現状での設計開発におけるシミュレーションの活用状況を議論した。

## 2) 「カテゴリーデータの整理方法」(牧野さん)

昨年の研究発表大会で、データベースの作り方による違いについて報告を行った。そこで、椿先生より、風向きをカテゴリーに変更するのではなく、三角関数で計算してみてはとのアドバイスをいただいた。風向きは、東を“0度”とし、時計回りに角度を設定し、角度を三角関数に変更し計算し、カテゴリーとの比較を実施した結果を報告した。結果は、あまり変わらなかった。(少しMT法のMD値が大きい) いただいたアドバイスで、予稿集を作成していく。

## 3) 「講演会 インド企業のタグチメソッド展開状況」(田口伸先生)

2021年からインドTVSモーター社へのタグチメソッド導入を指導している。

主要製品 二輪車（インド3位、世界4位）、三輪トラック

導入ステップ

- ①社内推進体制構築 community of practice
- ②実践ありきの導入： 選択テーマの質を重視
- ③大規模導入による社内文化の構築
- ④社内タグチシンポジウム、事例TOP発表会の開催

導入体制の特徴

- ①シックスシグマ、DFSSを基にした社内体制。 テーマ選択教育
- ②グリーン・ブラック・マスターブラックベルトの資格設定
- ③プロジェクト（テーマ）評価のやり方
  - パラメータ設計：テーマの質、計測特性（基本機能か、動特性・静特性）、ノイズを取っているか？、制御因子（数と質）、結果（利得）、総合点
  - MT：目的、正常群の定義、特徴量、結果（判別できているか？）

活動の振り返り

- ①完了20テーマで 4.4億円/年の効果。
- ②トップダウン、完了サイクルが速い、時間と予算を掛ける。
  - 完了サイクルが早い理由、シミュレーションの活用（80%）
  - 担当者全員がsoftwareに強い。実機への適用も8ヶ月で完了する。
- ③認定制度へのこだわり、技術者自身でIOT体制構築ができる。 優秀な人材を登用、政治家・教育機関との連携、
- ④初期は火消テーマ→ロバスト性の最適化に代わって来た。
  - ノイズを取り入れて最適化するパラダイムシフトができつつある。
- ⑤機能性評価を早く、安く、うまくやる 計測技術を開発することが技術開発である。
- ⑥バグだし、取った因子の中では不具合ゼロ
- ⑦テンプレート形式で 計画+進捗管理

## 4) 「事務局連絡」

①会計報告プレ 今期は計画通り活動を行い、予算執行はほぼ計画通りで過不足を生じず、問題なし。

②講演会招聘は来期に検討する。

③研究会活動基盤強化のために新規会員の勧誘を考える。

④26年度主要対外活動 関西合同研究会5月、品質工学シンポジウム10月、業務改善事例発表会 10月

関西研究会 新会長井上さんに交代